

令和4年度

すくすくウォッチ(大阪府小学生学力テスト)

柏原市における結果の概要について

柏原市教育委員会

【すくすくウォッチ実施の概要】

1. 目的

子どもたち一人ひとりが自らの強み等を知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実に身につける。

2. 実施内容・実施日

《実施内容》

5年生 国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート□

6年生 わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート

《実施日》

令和4年4月20日(水)

3. 各教科・わくわく問題(教科横断型問題)及びアンケートについて

《各教科について》

【国語】・言語能力・読解力の基盤となる、基礎的基本的な言葉等の理解を問う問題

・文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)をはかる問題

【算数】・関数・数と計算・図形に関する基礎的な知識技能、数学的な表現や意味理解、日常の事象を数学的に処理する技能を問う問題

【理科】・理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことや、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を問う問題

《わくわく問題(教科横断型問題)について》 ※5・6年生ともに同じ問題

・教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題(SDGs、プログラミング的思考)等をテーマにした問題

・文章やグラフ、ホームページの映像を模した場面等の様々な資料を題材とし、問題をつかみ、資料を読み取ったり思考したりして、自分の考えを表現する力を問う問題

《アンケートについて》

・非認知能力である「未来に向かう力」(「目標に向かって頑張る力」「人と関わる力」「気持ちをコントロールする力)」と「好奇心」の一人ひとりの状況がわかる様々な問い方に基づく項目

・学級や授業等に関する意識等を問う項目

※調査問題については以下の大阪府教育庁のホームページ内に掲載されています

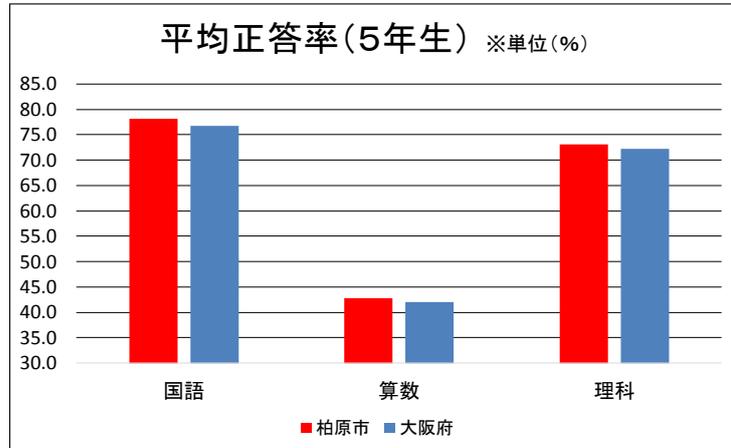
<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html>

令和4年度すくすくウォッチ結果

教科 5年生

平均正答率		
	柏原市	大阪府
国語	78.1 >	76.8
算数	42.8 >	42.0
理科	73.1 >	72.2

※単位 (%)

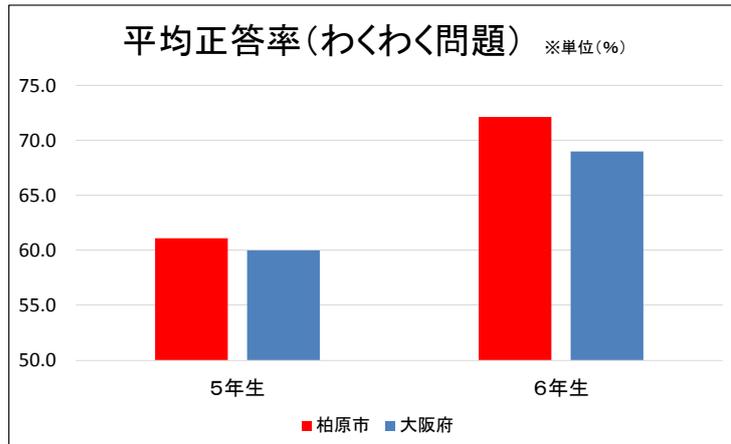


わくわく問題(5, 6年生)

※5・6年生ともに同じ問題

平均正答率		
	柏原市	大阪府
5年生	61.1 >	60.0
6年生	72.1 >	69.0

※単位 (%)

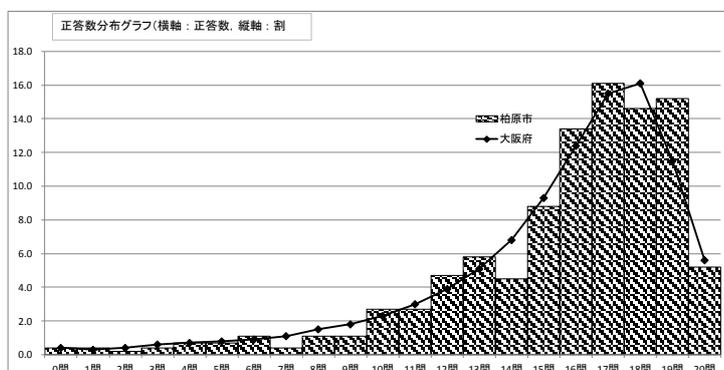
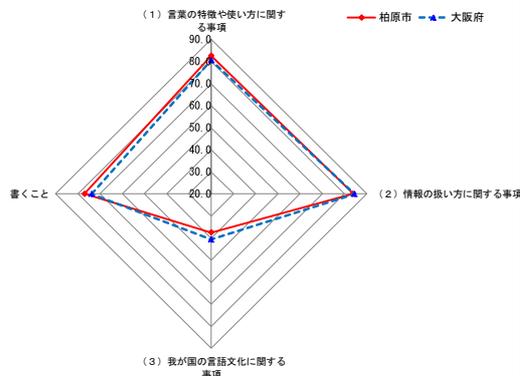


5年生教科は、国語・算数・理科の全てにおいて大阪府の平均正答率を上回った。わくわく問題についても、5年生、6年生ともに大阪府の平均正答率を上回る結果となった。柏原市の5年生と6年生を比較すると、6年生が11%上回っており、日常の活動や経験、学習における教科横断的な学びの積み上げが感じられる結果となった。

問題別調査結果

分類	区分	正答率		
		柏原市	大阪府	
全体		78.1	76.8	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	82.6	80.6
		(2)情報の扱い方に関する事項	83.8	84.5
		(3)我が国の言語文化に関する事項	37.4	40.6
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	—	—
		書くこと	76.9	73.8
読むこと		—	—	
評価の観点	知識・技能		78.1	76.8
	思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	—	—
		書くこと	76.9	73.8
		読むこと	—	—
主体的に学習に取り組む態度		—	—	
問題形式	選択	77.6	77.2	
	短答	78.7	76.4	
	記述	—	—	

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



○全体的にほとんどの区分で大阪府の平均正答率を上回った。
○正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向であるが、19問正答の児童の割合が大阪府を3.7%上回っている。

▼領域別にみると、「我が国の言語文化に関する事項」が、大阪府を1.4%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

課題の見られた設問

5(1)「ことわざの意味を正しく理解する」問題である。
本市の正答率は23.3%、大阪府の正答率は26.1%であった。
(最も多かった誤答は「1」本市の42.2%、大阪府の40.8%が選択)

5(2)「故事成語の意味を正しく理解する」問題である。
本市の正答率は51.4%、大阪府の正答率は55.0%であった。
(最も多かった誤答は「4」本市の25.8%、大阪府の25.1%が選択)

どちらも小学校3年及び4年[知識及び技能]において取り扱われる内容である。国語科の授業(単元)のみで学習するだけでなく、日記や普段の関わりの中で「言語に触れる」ことを意識することが、学んだ「知識及び技能」を日常生活でも用いるようになることにつながる。

5(2) (1) 五十歩百歩

1 やりすぎてしまうことは、たりないことと同じくらいよくないこと。
2 少しの違いがあっても、実際はほとんど同じであり差がないこと。
3 あまりにも違いが大きいので、わざわざ比べるまでもないこと。
4 五十歩歩いてから、さらに歩いていけば百歩になること。

正答・・・2

5(1) (1) 雨降って地固まる

1 雨が降ると、地面は一度柔らかくなってしまうからだんだんと固くなる。
2 良くないことが起きたときは、続けて良くないことが起きる。
3 小さなことでも根柢よく続けていけば、いつか良い結果になる。
4 もめごとがあったあとは、かえって前よりも良い状態になる。

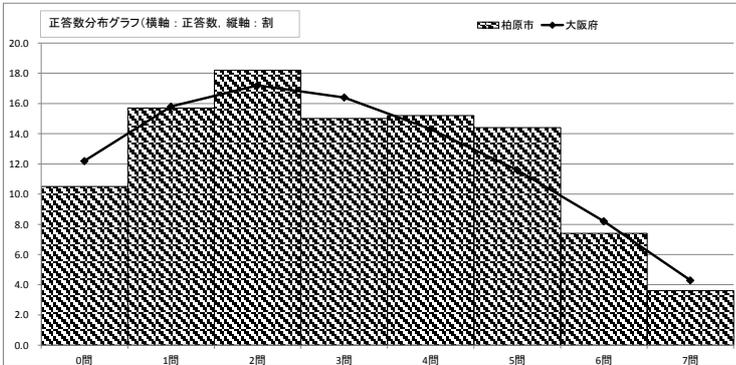
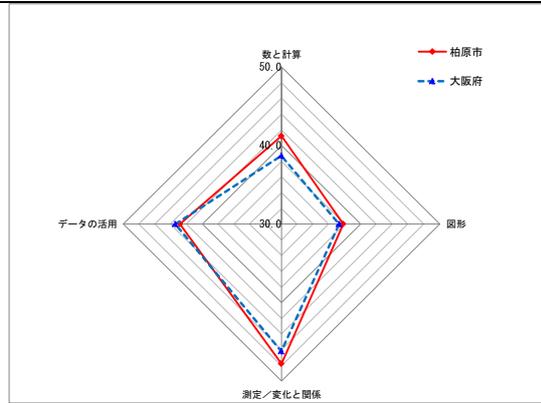
正答・・・4

算数(5年)

問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	大阪府
全体		42.8	42.0
学習指導要領の領域等	数と計算	41.2	38.7
	図形	37.8	37.3
	測定/変化と関係	47.8	46.2
	データの活用	42.8	43.4
評価の観点	知識・技能	43.2	42.0
	思考・判断・表現	29.6	29.8
	主体的に学習に取り組む態度	—	—
問題形式	選択	42.8	43.4
	短答	49.4	47.7
	記述	29.6	29.8

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



○全体的に見ると大阪府の平均正答率を上回っている。
○正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向である。

▼領域別にみると、「データの活用」が、大阪府をわずかに下回っている。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

課題の見られた設問

1(3)

(3) 小学生が走る距離(長さ)は、低学年(1, 2年生)が800m、中学年(3, 4年生)が1200m、高学年(5, 6年生)が1800mです。

たける: 低学年と中学年が走る距離(長さ)の差は400mで、中学年と高学年が走る距離(長さ)の差は600mです。なぜ、ちがうのですか。

実行委員長: 低学年が走る距離(長さ)を「 \square 」とみたととき、中学年が走る距離(長さ)は低学年が走る距離(長さ)の「ア」倍となるようにしています。

 同じように考えて、中学年が走る距離(長さ)を「 \square 」とみたととき、高学年が走る距離(長さ)は中学年が走る距離(長さ)の「ア」倍にしています。

たける: なるほど、同じ割合にしているんですね。

問い 実行委員長の発言の「ア」にあてはまる数を書きましょう。

正答...1.5

「低学年と中学年、中学年と高学年の走る距離という、2つの数量の関係を比べるとき、割合を用いる場合があることを理解するとともに、小数倍の計算をする」問題である。

本市の正答率は31.0%、大阪府の正答率は39.4%であった。

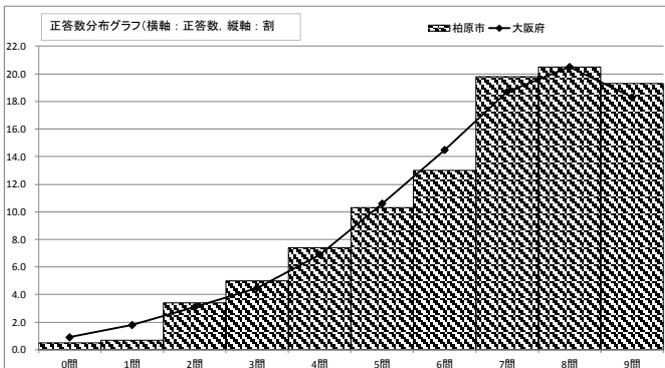
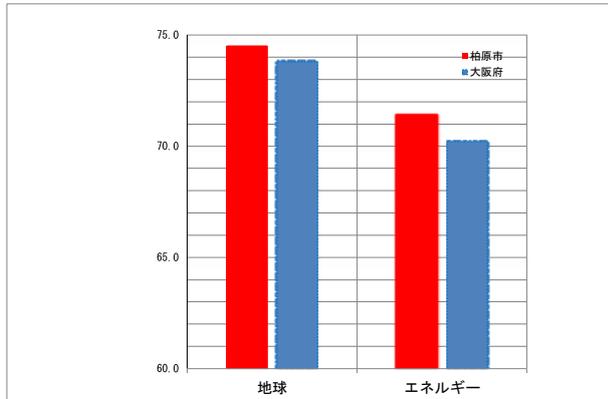
本市の12.6%、大阪府の11.4%の児童が「約2」と解答しており、問題文の正確な読み取りができなかったと考えられる。

設問の中にある一つひとつの用語を正確に読み取ることが重要である。

問題別調査結果

分類	区分	正答率	
		柏原市	大阪府
全体		73.1	72.2
学習指導要領の領域等	物質	—	—
	エネルギー	71.4	70.2
	生命	—	—
	地球	74.5	73.8
評価の観点	知識・技能	71.7	70.3
	思考・判断・表現	78.7	77.3
	主体的に学習に取り組む態度	—	—
問題形式	選択	73.6	73.3
	短答	69.0	66.4
	記述	78.2	78.6

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



○選択式及び短答式問題形式の正答率が大阪府の平均正答率を上回った。

▼全体的に大阪府の平均正答率を上回っているが、記述式の問題形式がマイナス0.4%と大阪府の平均値をわずかに下回っている。

課題の見られた設問

1(4)

(4) 問い たかしさんは、電流が大きくなり、モーターがより速く回る2個の乾電池のつなぎ方を見つめました。たかしさんが見つけた2個の乾電池のつなぎ方を、解答欄の [] の中にある、2本の導線の続きにかき入れて完成させましょう。また、そのつなぎ方を表す言葉を書きましょう。

正答

言葉
直列つなぎ

※図、言葉のいずれかが正解の場合は準正答となる

車の模型を動かすことを題材に、風の力の大きさを変えると物を動かす力が変わること、検流計の使い方、直列つなぎのつなぎ方及び電池のつなぎ方を逆にすると電流の向きが変わることの理解を問う内容のうち、「2つの乾電池を用いるとき、電流が大きくなる導線のつなぎ方を理解し、図で表現する」問題である。本市の正答率22.9%、大阪府の正答率は21.8%であった。

3年生の授業では、「電気を通すつなぎ方」「電気を通す物」について学ぶ。また、4年生の授業で「乾電池の数とつなぎ方」について学ぶ。実際の導線のつなぎ方と、つなぎ方の名称を答える問題であるが、準正答の割合は、本市29.5%、大阪府24.8%であった。論理的な思考とともにつなぎ方を表す言葉の意味について理解できるよう、授業を進めることが重要である。

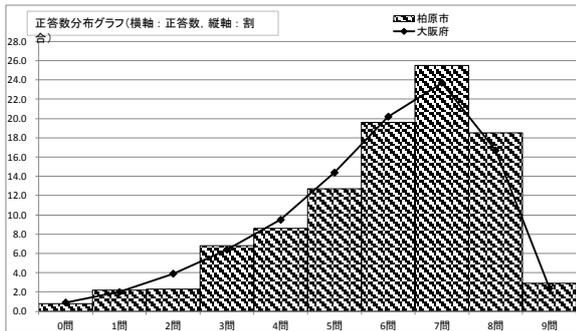
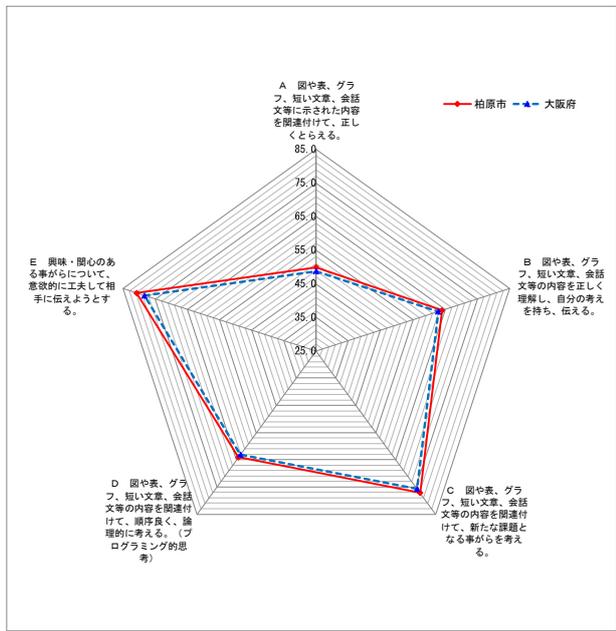
わくわく問題(5、6年)①

問題別調査結果

※数値は5、6年生の平均値になります。

分類	区分	正答率	
		柏原市	大阪府
全体		66.2	64.5
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。	53.8	52.4
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。	70.4	68.5
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事から考える。	81.2	79.5
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。(プログラミング的思考)	69.6	68.1
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	84.5	82.6
問題をとらえる	文章から読み取る	63.5	62.2
	会話から読み取る	70.4	68.4
	図や表から読み取る	63.9	62.3
伝える	資料の情報を整理して伝える	66.4	65.0
	自身で考えたことを伝える	73.3	71.7
	理由や根拠を明確にして伝える	60.7	58.8
問題形式	選択	47.1	46.5
	図表	71.4	68.4
	記述	71.7	69.9

<観点別の平均正答率の状況>



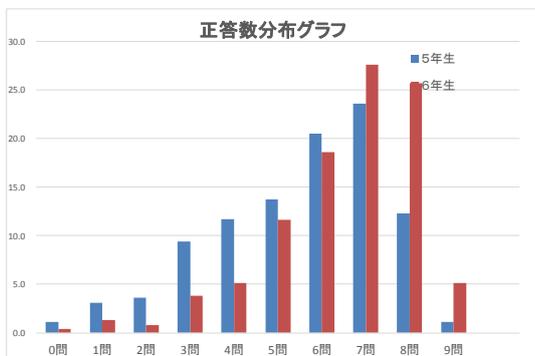
- 全ての区分で大阪府の平均正答率をやや上回っている。
- 正答数の分布は概ね大阪府と同様の傾向である。

▼大阪府の平均正答率は上回っているが、観点「図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる」区分に課題がある。

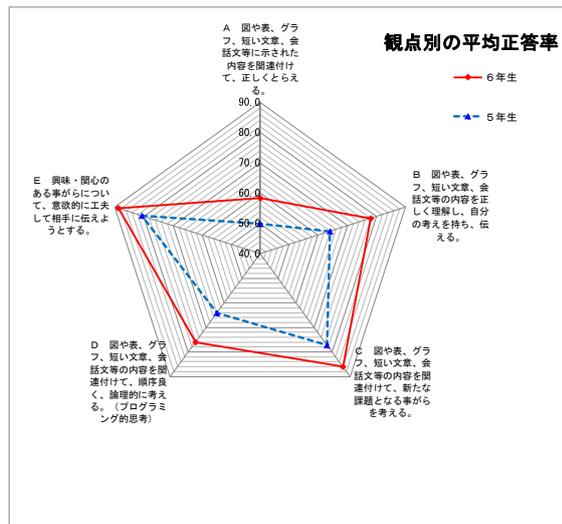
・5年生と6年生を比較すると高位層の正答者数は6年生が大きく上回っている。(課題の傾向は概ね同じである)

※ ○印: 成果 ▼: 課題

5、6年生の比較



観点別の平均正答率



課題の見られた設問 2

問1 たかしさんは、プレートの命令に従って自動で走るミニカーのコースを作ってあげようとしています。次の【説明書】には、ミニカーの進み方が書かれています。

【説明書】ミニカーの進み方

ミニカーは、スイッチを入れると次のように進みます。

●ミニカーは前に進み、後ろには進みません。

●コース上のプレートの種類によって、次のように進みます。

プレートの種類：、、、の4種類

プレートのマークが○なら直がらずまっすぐ進む

プレートのマークが×ならプレートの手前で止まる

プレートのマークが□ならプレートで右に曲がる

プレートのマークが△ならプレートで左に曲がる

※プレートのマークの向きはミニカーの進み方に関係ありません。
※コース上の交差点や曲がり角には必ずプレートを置きます。

次に、たかしさんは、「自動で動く車」が日本でどのくらい作られているのかを調べ、次の資料2を見つめました。

資料2 【日本で一年間に生産される「自動で動く車」の台数】

	2015年	2019年	2025年 (予想)	2030年 (予想)
運転を支援する車	265万台	535万台	886万台	756万台
自動運転車	0台	0台	4万台	83万台

(国土交通省「自動車技術開発ロードマップ2025」より作成)

問2 資料1、資料2からわかることとして正しいものを、次のアからエまでの中から1つ選びましょう。

- ア 「自動で動く車」は、2015年には生産されていない。
- イ 「自動で動く車」の生産台数は、2019年と比べると2030年は、304万台増えることが予想される。
- ウ 「運転を支援する車」の生産台数は、2015年と比べると2030年は、3倍以上増えると予想される。
- エ 2025年と2030年の予想生産台数を比べると、「運転を支援する車」は増えるが、「自動運転車」は減る。

問2 たかしさんは、ミニカーで遊んだあと、実際に人が使うための開発が進む「自動で動く車」について調べ、次の資料1を見つめました。

資料1 【「自動で動く車」の分類について】

「自動で動く車」は、運転の一部を車が助けてくれる「運転を支援する車」と、すべての運転を車が行う「自動運転車」の大きく2つに分かれます。

		内容
自動で動く車	運転を支援する車	アクセル、ブレーキ、ハンドル操作のうち、一つまたは、複数を手がける。 【例】 <ul style="list-style-type: none"> ・直の車にぶつかりそうときにブレーキ操作を自動で行う。 ・高速道路で、車線の中央を走るようにハンドル操作を自動で行う。 ・高速道路で、一定の速さで走るようにアクセル操作を自動で行う。
	自動運転車	すべての運転を車が行う。 ただし、高速道路など特定の場所では自動運転ができないなどの条件がある車もある。

※アクセルペダルをふむと車が加速する装置。

「先進技術の中でも身近なものになりつつある自動運転車を取り上げ、論理的思考力を問うとともに、複数の資料を関連させながら読み取る中で、技術と生活との関係に対する知識や関心を持つことを目的とした」問題である。本市の正答率は9.5%(5年生7.9%、6年生11.4%)、大阪府の正答率は9.9%(5年生8.9%、6年生10.8%)であった。

特に(1)では、ミニカーが順序良くゴールにたどり着くために、どの指示を行うとよいのか考える中で、プログラミング的思考力を育むことをねらっている。

「どのように考えるのか」を具体的に指導・支援する一つに「シンキングツール(思考ツール)」の活用が考えられる。例えば、本設問のように、会話や表から与えられた情報を図を用いて整理し考えをまとめる。また、その媒体としてICTを活用することでより効果的な取り組みにつながる。

これらを参考に教科横断的な視点で「何を」「どのように」考えさせるのかを日常的に意識して指導することが重要である。

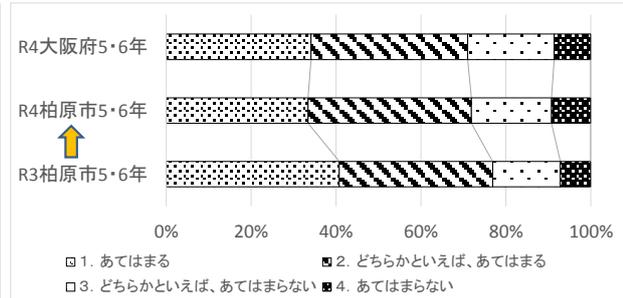
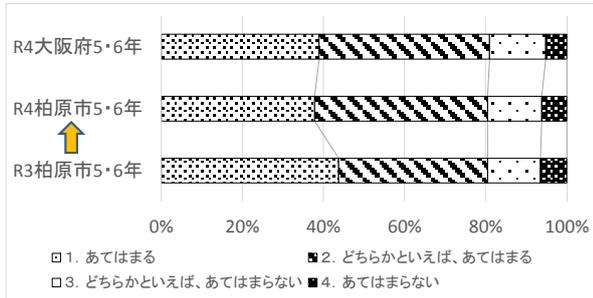
正答・・・イ

アンケート結果

※数値は5, 6年生の平均値です。

○その時間のめあてを意識して学習している

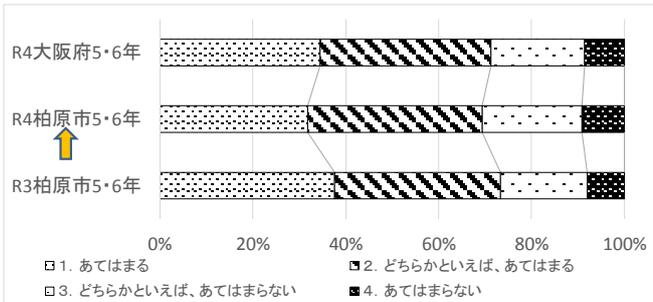
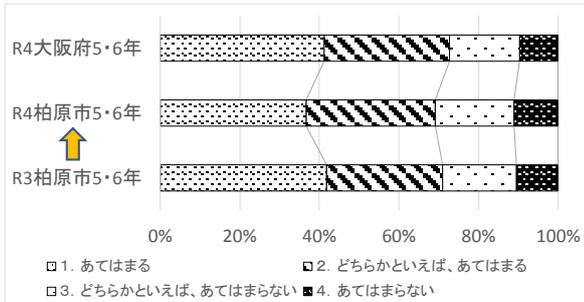
○その時間に学んだことについて、ふり返りをしている



「指導と評価の一体化」をめざした授業づくりにおいて、大事にしていきたい質問項目である。どちらも大阪府と同水準となっている。令和3年度と比べると「その時間のめあてを意識して学習している」については肯定的回答(あてはまる・どちらかといえば、あてはまる)は同水準であるが、「その時間に学んだことについて、ふり返りをしている」については減少している。日頃の授業の中で、継続して意識していく。

○わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている

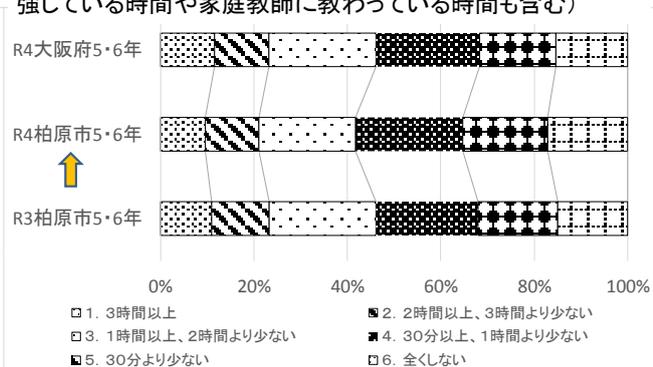
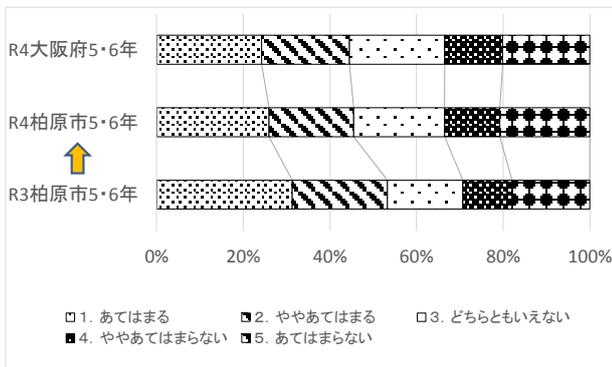
○文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる



「必要な情報の使い方」についての項目である。「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」については、昨年度と同水準となっている。しかし、「文章を読むとき、どこが大事な所か考えながら読んでいる」については昨年度より減少している。児童が必要な情報を得るために、必要な情報を焦点化できるよう意識する指導が求められる。

○自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強をしている(宿題は除く)

○ふだん(月曜日から金曜日)1日に、学校の授業や宿題以外に、およそどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



「家庭学習」の内容に関する項目である。令和4年度における柏原市の肯定的回答の割合は概ね大阪府と同水準となっているが、「5. 30分より少ない」と答えた割合は柏原市18.0%、大阪府16.9%、「6. 全くしない」と答えた割合は柏原市17.0%、大阪府15.2%と、いずれも柏原市の割合の方が多くなっている。児童が主体的に考え、自ら学習に向かう習慣づくりに向け、学校でも授業と家庭学習をつなぐ視点で「自主学習」の力をより高めていく必要がある。

○教育委員会としての今後の取組み

- ・すくすくウォッチの分析を市内で共有し、各校の授業改善に活用する。
- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「複数の情報を関連付けて読み取る力」など言語能力をはじめとした学力の向上をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく。
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく。
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする。
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める。
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく。
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく。

○学校における今後の取組み

- ・児童一人ひとりの学力の変化等を把握し、学力向上に向けた取組みを推進する。
- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる。
- ・「(複数の)情報を読み取る力」に焦点を当て、活動の充実を図る。
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業づくりをすすめる。
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる。
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる。
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる。

○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

① 基本的な生活習慣の定着

- ・決まった時間に寝起きして生活のリズムを意図的につくる。
- ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す。
- ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる。

② 家庭学習習慣の定着

- ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める。
- ・毎日の宿題ができているかを確認する。

③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り

- ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める。
- ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する。